

災害復旧事業によせて

## 殿島橋の完成に寄せる地元の想い ～殿島橋災害復旧工事について～



長野県伊那市長  
小坂 櫨 男

### 1. はじめに

伊那市は、長野県南部に位置し、南東側は南アルプスを境に山梨県と静岡県に接し、西側は中央アルプスを境に木曽地域に接しています。

市域は667.81km<sup>2</sup>で、松本市、長野市について長野県下3番目の面積を有し、その市域の中で、両アルプスに挟まれた平野部には、標高600mの伊那盆地が開けています。その中央を天竜川や三峰川が流れ下り、支流を合わせ河岸段丘や扇状地が形成されており、段丘上段からは広大な2つのアルプスのパノラマが展開し、この眺望は伊那市のキャッチフレーズになっています。

また、東部に南アルプス国立公園、三峰川水系県立公園を、西部に中央アルプス県立公園を有し、自然に恵まれた地域でもあります。

気候は内陸型で、年間平均気温が約12℃、年間の日照時間も長く、冷涼で住みやすい環境にあります。

道路は、県南部を縦断する主要幹線である国道153号、国道152号と、平成18年2月に「権兵衛トンネル」が開通した国道361号が横断し、加えて多くの主要地方道、一般県道が東西・南北に走る交通の要所となっています。また、西部には中央自動車道が南北に走り、首都圏及び中京圏を結び、伊那市はどちらからもほぼ等距離にある位置的に恵まれた地域です。

平成18年3月31日に旧伊那市、旧高遠町、旧長谷村が合併して、人口約74,000人の新「伊那市」が誕生しました。

新伊那市では「産業とにぎわいの伊那市」「歴史と文化の高遠町」「自然の長谷村」といった、それぞれの持つ地域特性を結びつける取り組みが

始まっています。

また、権兵衛トンネルの開通による商圏の広がりや工場団地への企業集積、伊那中央病院を核とした医療圏の拡大で伊那市は長野県南部の政治、経済の中心都市として発展しています。

さらに、史跡高遠城址公園のタカトオコヒガンザクラ、南アルプスの山々や「みはらしファーム」を始め多くの観光資源にも恵まれています。

今後ますます交流人口の増加をめざし木曽谷地域と連携した広域観光にも力を入れています。

これらのことから、本市の将来像である「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市～人と歴史と文化を育む 活力と交流の美しいまち～」の実現を目指しております。

### 2. 殿島橋で結ばれる東・西春近地区

殿島橋を挟んだ東春近地区は天竜川の東側（左岸）・西春近地区は西側（右岸）に位置し、それぞれが5～6,000人の人口を有する伊那市の中でも大きな地域を形成しています。また、殿島橋周辺は江戸時代から伊那街道が通過し、高遠道、中沢道、西山への道路が接続する交通の要所でありました。

また、東春近地区は平坦部で山がなく、山を背負った西春近地区で緑肥、飼料、薪炭、建築材などの需要を満たす必要から両地区の結びつきは強く、殿島橋により地域の交流が昔から図られてきました。

特に両地区の子供達の通学する、春富中学校は東春近・西春近・富島の各中学校を統合しました。

この学校建設の位置設定については、通学距離、通学条件などを考慮して、3地区の中間点へ建設

することとなり、昭和37年12月から東春近中殿島地籍へ建設することとなり、両地区の結びつきは一層強くなり、西春近地区からの生徒が通う唯一の橋として、この殿島橋は重要な通学路となりました。

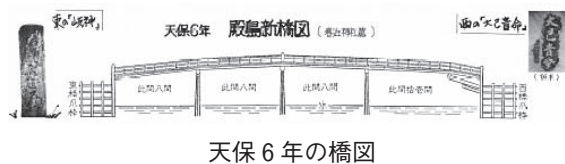
また、西春近地区には JR 飯田線が走り、東春近地区の高校生は殿島橋を渡り、沢渡駅より各高校へ通うための生徒の通学路にもなっています。

このように東春近地区と西春近地区は、殿島橋を挟んだ交流により、緊密な関係で結ばれており、殿島橋への想いは強く、愛着が定着してきた両地区であります。

### 3. 殿島橋の歴史

殿島橋は天正 3 年（1575年）に武田勝頼兵を長篠に進める兵站路として橋を渡したのを始めとして、その歴史は古く伊那街道、高遠道、中沢道、権兵衛峠へ通じる地方交通の要路でありました。

天保 6 年（1835年）に高遠藩の補助を得て長さ 63.0m、幅3.6mの定橋とした時には橋の東詰に岐神、西詰に大巳貴の命を祭り交通の平安を祈りました。



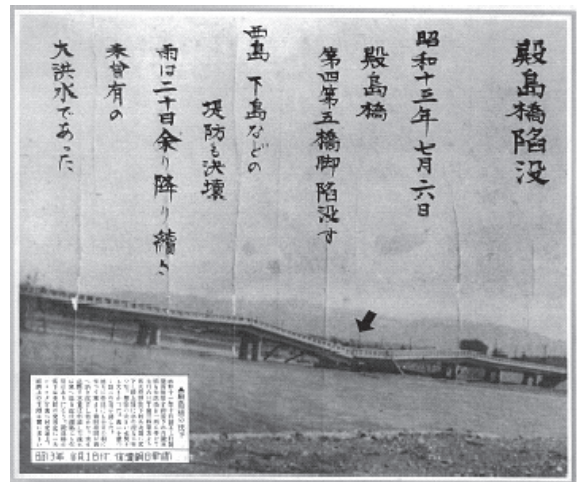
しかし殿島橋の歴史は落橋の歴史でもあり、天竜川の氾濫のたびに101回の架替を行うなど苦難の連続でありました。



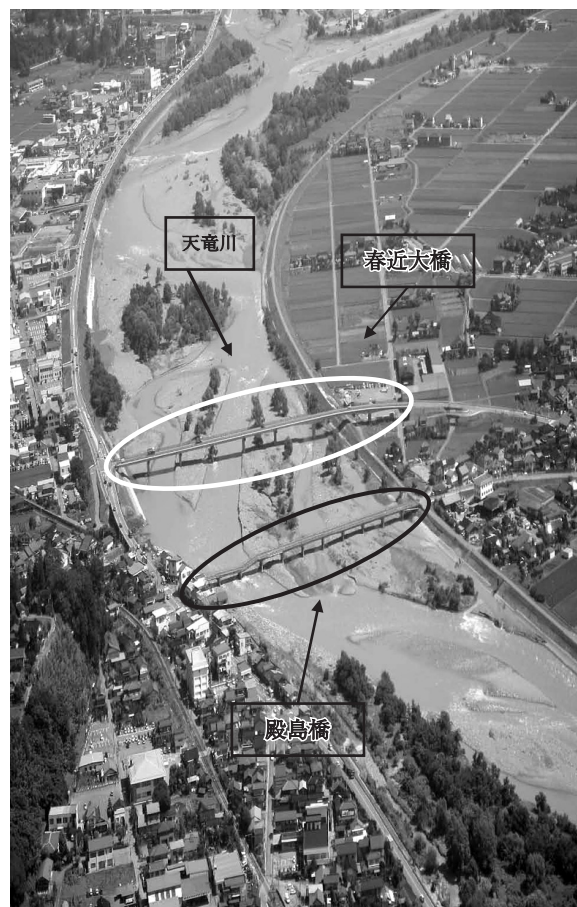
昭和11年 しゅん工祝賀式の風景

昭和11年には、車道橋として鉄筋コンクリートの永久橋（延長213.5m、幅員4.5m）が完成、地元協賛会の手で盛大にしゅん工式祝賀式が開催されました。

しかしながら昭和13年、6月から降り続いた長



昭和13年 7 月の殿島橋陥没



平成18年 7 月豪雨災の殿島橋陥没

梅雨は未曾有の豪雨となり東から四番、五番の橋脚が被災し、復旧には多大な労役を必要としました。

その後50余年の間、殿島橋は先に記述したとおり、天竜川をはさむ東西春近両地区を結ぶ重要な生活路線としての役割を果たしてきました。

この殿島橋が老朽化し狭隘であることから、交通渋滞を起こすため、新橋建設要望の声が大きく

なり、昭和61年に殿島橋上流200mの所に新しい橋を架けることが決定され、着工から5年の歳月をかけて、平成3年に完成した春近大橋に自動車交通を譲りました。

殿島橋は自転車歩行者専用道路として残り、西春近地区の中学生が統合中学へ通う唯一の通学路として重要な役割を継続することになりました。



### 4. 平成18年7月豪雨災害の状況

平成18年7月17日から降り始めた雨は7月19日まで降り続き連続雨量で340mmを記録し、日最大雨量173mmは観測史上最高となりました。

天竜川でも観測史上最大の洪水となり護岸や堤防などに大きな被害が出ました。

長野県の被災状況は、死者12名、行方不明1名重傷4名、軽傷16名、住宅等の被害全壊22世帯、半壊24世帯等の大きな被害となりました。

伊那市では、平成18年7月17日から降り始めた雨で天竜川が増水し、伊那市にかかる各橋の桁近くまで増水し、いつ天竜川から溢れるかわからない状況となり、伊那市内でも避難勧告等がだされました。

この平成18年7月豪雨災害では伊那市全体で3,565世帯、約9,900名の方に避難勧告や2,102世帯5,412名に避難指示を出しました。

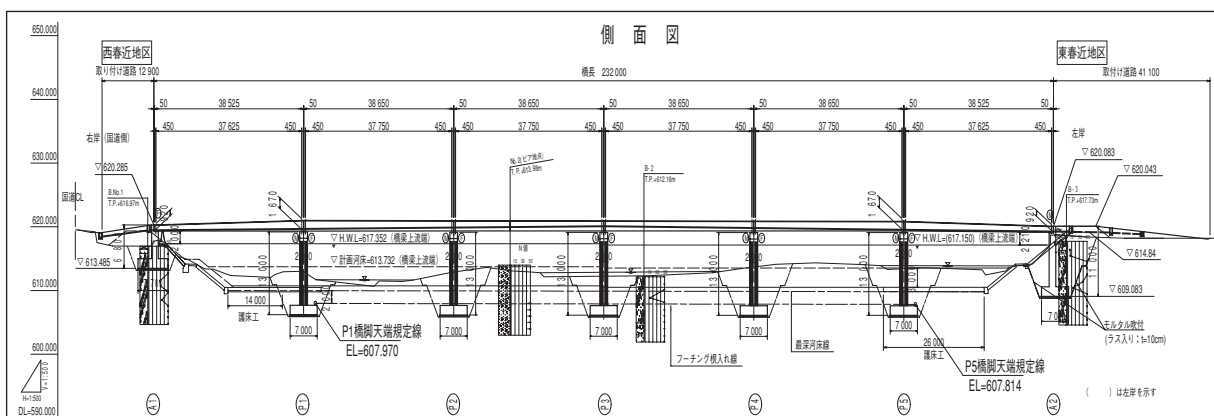
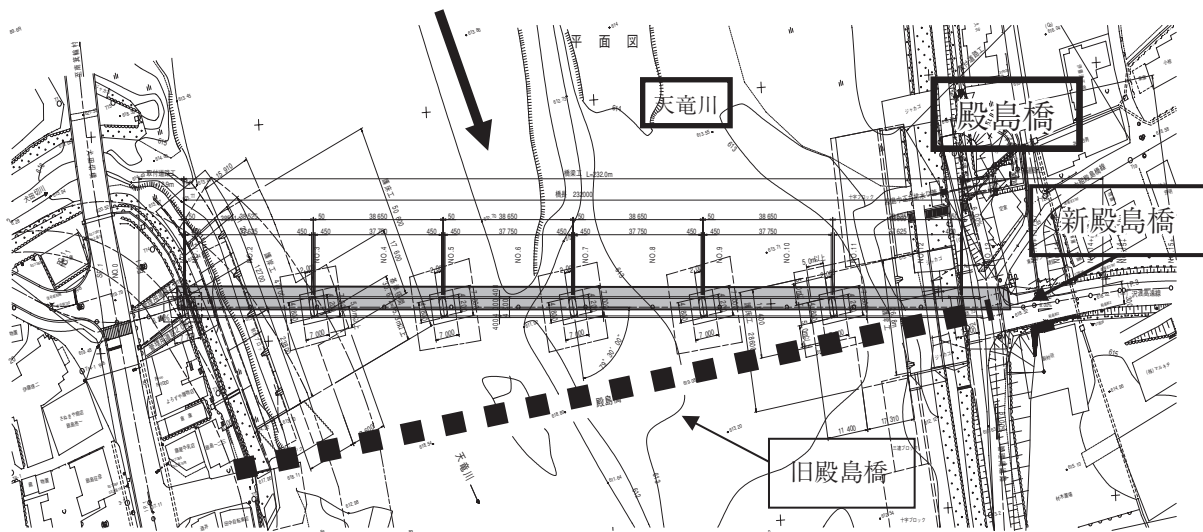
伊那市内の被害は、土木関係136箇所、農林関係328箇所、教育関係2箇所、計466箇所、農作物被害約1億5千万円にのぼりました。

このように経済的には大きな災害となりましたが、幸いなことに、人的被害は一件も発生しませんでした。

これも、災害に備え砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業など、国・県等関係機関と協力しながら計画的に整備をしてきた結果でもあると感謝申し上げます。

### 5. 殿島橋の復旧・架替

殿島橋については橋の老朽化が進む中で、春富中学校へ通う生徒やJR飯田線で通学する高校生の通学の安全を考え、平成16年度から地元地区・県・市で協議会を作り架替への必要性が話し合われていました。





協議では橋の構造・橋の架替位置などを、地元と調整し殿島橋の架替事業化に向けて進んでいました。

その矢先、平成18年7月の豪雨災害が発生し、殿島橋は右岸側の桁から落橋がはじまり、ほぼ全体が変状をおこし全く通行不能となってしまいました。

生徒、学生の通学のための仮歩道は、上流春近大橋（車道）の一部を歩道化することで当面の通行の確保が図られましたが、歩行者の安全面から早期殿島橋の復旧が声高に叫ばれました。

平成18年10月の災害査定で採択となり、2年半の歳月を経て復旧が完了しました。

災害復旧事業では多くの皆様のご協力により復旧を見、平成21年3月29日に開通式を迎えられることとなりました。

#### 殿島橋の概要

延長 L = 280.8m W = 4.0m

橋梁工 上部工（6径間 RC 単純バルブ桁）

L = 232.0m W = 4.0m

下部工 7基

#### 6. むすびに

開通式は、60年前のしゅん工祝賀式と同じように地元の皆さんにより、式前から準備が進められ、東西春近の太鼓や獅子舞、地元春富中学校の吹奏音楽などが披露されました。

三代渡り初めでは6組の家族の方々が渡られるなど、多くの地元の皆さんの感謝の気持ちが表現された盛大な式になりました。

また、殿島橋の橋名板は、地元春富中学校の多



地元獅子舞



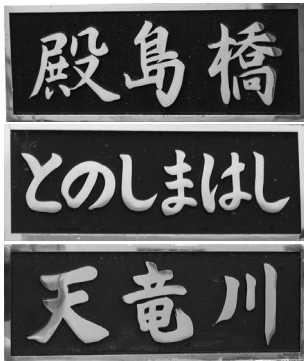
地元太鼓



春富中学校吹奏音楽



三代渡初



橋名板

くの生徒さんの橋名・河川名から地元の方々が選考した三名の生徒さんの字が橋名板になり、新しい橋のシンボルとなっております。

通学路として、この橋を最も多く使う中学生にとって、かけがえのない橋として一生の記念となって残っていくことだろうと思います。

旧殿島橋の竣工渡橋式には、県知事ほか郡内外の名士900人が参列し、渡り始めが行われたと、



春富中学校の多くの生徒さんの橋名・河川名

当時の新聞には記載されています。

今回の開通式では各方面からの出席者と地元東春近・西春近の両地区から1,000人近い方が出席され盛大な渡り初めが挙行されました。

両地区の皆さんの60数年間変わらぬ殿島橋への愛着が感じられた開通式でありました。

平成18年7月豪雨災害で多くの箇所が被災を受けましたが、これを教訓に伊那市は今後とも、地域の安全を第一優先に、防災に心がけ、市民の皆様の安全で安心できる暮らしができるよう、「災害に強いまちづくり」を推進すべく、積極的に各事業に取り組んで参ります。

おわりに、殿島橋の復旧に多大なる御支援をいただきました、国土交通省、長野県の関係者の皆様と、地権者、地区役員の皆様の御協力に感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。